

今年も盛大に行われた蓮まつり

7月13日、古代蓮の里で第17回行田蓮まつりが開催され、早朝から多くの人でにぎわいました。

会場には、友好都市の福島県白河市や健康づくり協定を結んでいる群馬県上野村の観光物産をはじめ、さまざまな模擬店が並び、ステージイベントと共に祭りを盛り上げました。また、蓮もちや蓮粥、蓮茶も振る舞われ、来場者は味覚でも蓮を堪能することができたようです。古代蓮の見頃は8月上旬までです。少し早起きして、幻想的な花を咲かせる蓮の魅力を感じてみませんか。



優勝目指して

6月28日、行田グリーンアリーナで第24回行田市綱引き大会が行われ、低学年・中学年・高学年の部に、56チーム・527人の児童が参加しました。

優勝目指して力の限り綱を引き、白熱した試合を繰り広げる児童たち。熱のこもった試合に呼応するかのように、観客の応援も力が入っていました。この大会にチーム全員の気持ちを一つにして臨んだことが、児童たちにとってきっと忘れない思い出となったことでしょう。



短冊に願いを込めて

7月7日、前谷農村センターで行われた「いきいきサロン」で、前谷地区在住の高齢者の皆さんが七夕の飾り付けに参加しました。

同センターの玄関前には、七夕馬が飾られ雰囲気を出した。この七夕馬は同地区在住の加藤隆弘さんが作成したそうです。自分の願い事を書いた短冊を笹の葉に飾った参加者は、「まるで童心に戻ったみたい」と笑顔を浮かべていました。



きれいなまち行田のために

7月6日、「下長野古代蓮の里通線清掃ボランティア」の皆さんが、市の都市計画道路「古代蓮の里通線」の清掃美化活動を行いました。

古代蓮の里を訪れる観光客の皆さんに「行田はきれいなまちだね」と思ってもらえるよう、長野地区の白山区自治会、大下区自治会、新田区自治会の3自治会が母体となってボランティアを結成。平成18年から年2回、清掃活動を実施しています。歩道の清掃や除草作業など約1時間かけて行ったボランティアの皆さんは、今年も古代蓮の里に多くの観光客が訪れ、気持ちよく過ごしていただければと話していました。



写真館

GYODA CITY PHOTO STUDIO

「伝統芸能(狂言)」の魅力を満喫

6月29日、産業文化会館ホールで「万作の会 狂言 行田公演」が行われました。

この公演は昨年に引き続き2回目。今回は、野村萬斎さんの父であり人間国宝の野村万作さんが出演しました。初めに萬斎さんが演目「佐渡狐」と「棒縛」のあらすじや見どころについて、分かりやすく解説。その後、万作さんや萬斎さんら出演者が狂言を披露し、滑稽なせりふやしぐさで観客の笑いを誘いました。この公演を鑑賞した誰もが、伝統芸能である狂言の魅力を感じることができ、有意義な時間を過ごすことができました。



「VIVAぎょうだ」は創立7周年を迎えました

6月29日、創立7周年を迎えた男女共同参画推進センターVIVAぎょうだで「VIVAぎょうだフェスティバル」が開催されました。

この催しは、男女共同参画週間に合わせて行われたものです。会場では「デートDVとは何か」について解説したパネルを展示。また、護身術講座、アロマテラピー体験など盛りだくさんの内容でイベントを盛り上げました。このイベントを通じて、VIVAぎょうだがさらに身近な施設となったことでしょう。



蓮が友好の架け橋に

6月25日、新潟県上越市の「花いっぱい上越」のメンバーの皆さんが古代蓮の里を訪れました。

今年の4月、行田蓮とアメリカ黄蓮を掛け合わせて生まれた品種「甲斐姫」を、「東洋一の蓮」と呼ばれている上越市の高田公園に寄贈したことをきっかけに上越市との交流が始まったものです。当日は、行田市蓮の大使を務める木暮照子さんがメンバーの皆さんを出迎え、古代蓮の里や園内に咲くさまざまな蓮花の説明などを行いました。これからも上越市の皆さんとの交流が、蓮を通して積極的に行われることでしょう。

